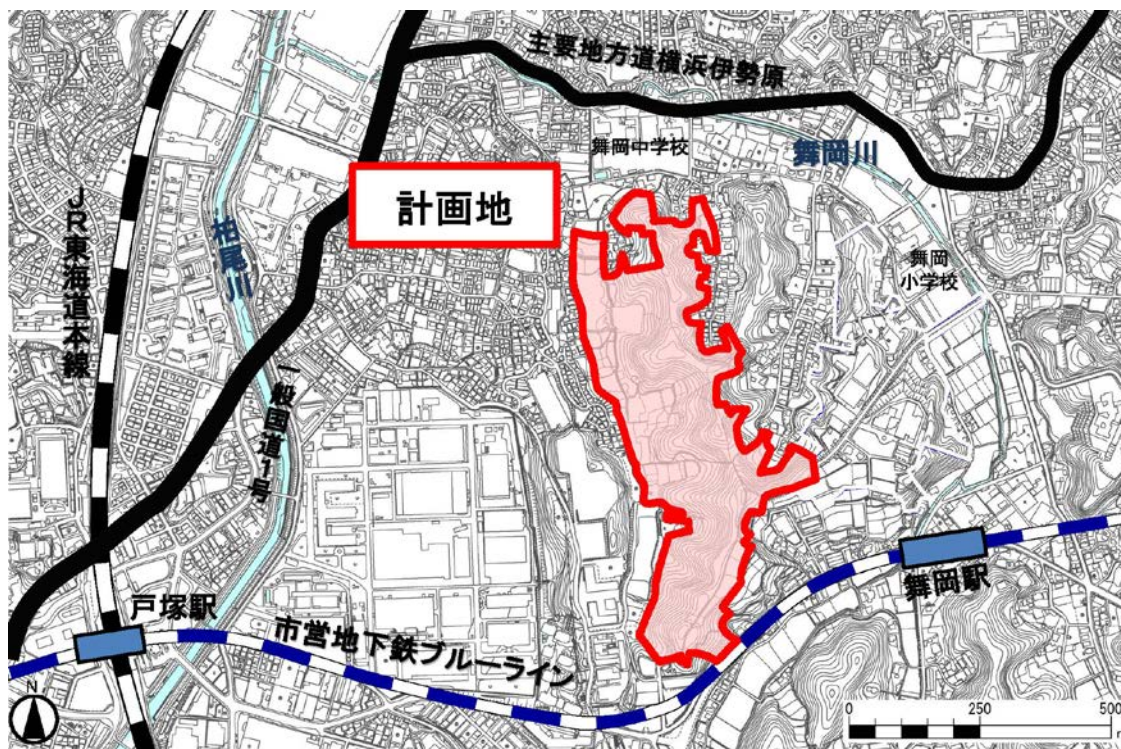


(仮称) 舞岡町公園整備事業、及び(仮称) 舞岡地区新墓園整備事業の計画概要

●位置図



●計画地周辺（舞岡リサーチパーク構想）の主な経緯

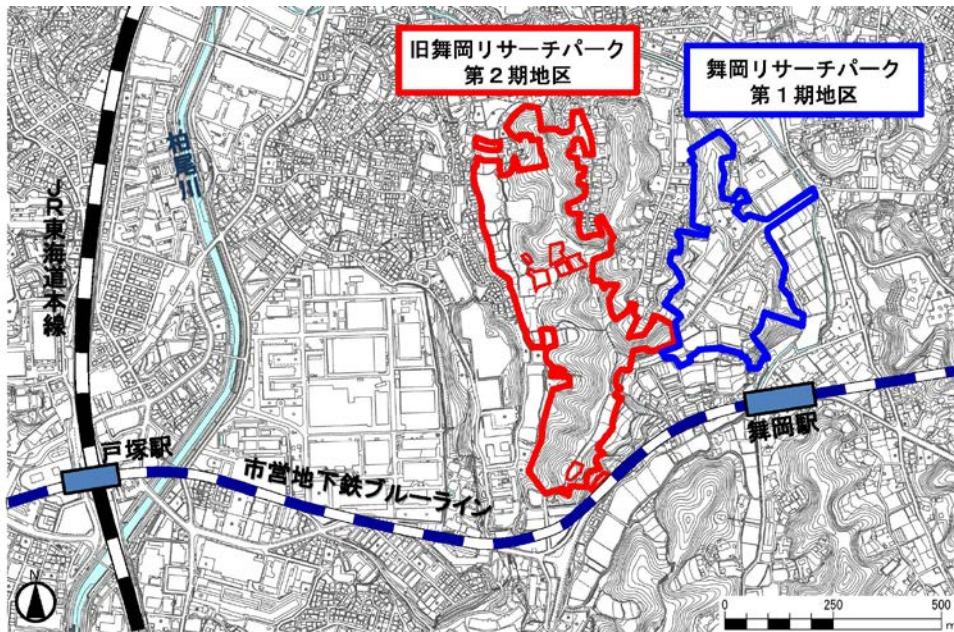
昭和60年3月に開設した市営地下鉄1号線舞岡駅周辺において、バイオを中心とした先端産業拠点を形成することを目的に「舞岡リサーチパーク構想」を策定しました。

(1) 舞岡リサーチパーク第1期地区

舞岡駅北側の約9ヘクタールにおいて、横浜市土地開発公社ほか19名により、共同施行の土地区画整理事業を実施し、横浜市立大学木原生物学研究所を核としたバイオテクノロジー等の先端技術産業施設の集積を図りました。

(2) 計画地（旧舞岡リサーチパーク第2期地区）

舞岡リサーチパーク第1期地区に隣接し、神奈川県が所有していた用地（約15.7ヘクタール）について、第1期事業と同様に先端産業施設の集積を目的に平成7年3月に横浜市土地開発公社が取得し、土地区画整理事業の検討を進めましたが、長引く経済の低迷などから、民間企業等の誘致が困難となっていたことから、平成25年6月に当初の計画を大幅に見直し、市民利用を前提とした土地利用を図ることとし、本市が土地開発公社から用地を引き継ぎました。



●計画の見直しの視点と新たな土地利用計画の基本的な方向性

計画の見直しにあたっては、計画地（旧舞岡リサーチパーク第2期地区）が、緑の10大拠点「舞岡・野庭」に位置付けられ、貴重な樹林地となっていることや、広域避難場所である「八幡山一帯」に指定されていること、さらには、大規模かつ貴重な公有地であることから、地域的な視点から全市的な視点における課題やニーズ等を踏まえ、複合的かつ総合的な土地利用の検討を行いました。

(1) 戸塚区や周辺地域における課題やニーズの視点

貴重な樹林地や里山景観を保全しながら、災害時の一時避難場所の機能や地域のイベントができる多目的な空間を確保します。

また、戸塚区内には野球やサッカーのチームが多いことなどから、様々なスポーツができる運動施設の整備を図ります。

(2) 全市的な課題やニーズの視点

大規模かつ貴重な公有地を有効活用するため、全市的に不足し、市民ニーズの非常に高い緑豊かな墓園を公園と一体的に整備します。

また、貴重な緑環境や地形を生かし、子供から高齢者まで多くの人が集い、楽しめる施設の充実を図ります。

●基本的なゾーニング案

現在の地形や緑、周辺からのアクセスなどを踏まえ、全体区域を6つのエリアに分け、エリアごとに特色ある施設を配置していきます。

